

和歌山県伊都郡九度山町議会

2 住民に開かれた議会

国の行財政が大きく変化して行く中、アベノミクスが今後どのように変わって行くのか我々市町村には未だ変化の兆しが見えてこない。今後、地方創生・行財政が大きく変化して行く中、地方分権型社会への対応が我々の議会に課せられた大きな課題であろうと思われる。

また、町当局に対する監視能力、議会の政策能力が今まで以上に大きな役割として必要になると思われる。議会での議論も大事であるが、町民と議会、町当局と議会が一つになり、今の財政難を乗り切ることが町の発展につながるものと思われる。

九度山町議会は、このように一つになり、町の行政を監視しながら前向きに会議を進めております。

また、次代を担う子どもたちに町政に関心を持ってもらい、子どもたちの声を町政に生かすべく、平成19年度から毎年夏休みに「子ども議会」を開催しております。「子ども議会」も今年で8回目を迎えましたが、年々回数を重ねるごとに質問の内容も深まり、幅広い分野のテーマが取り上げられ、子どもたちが九度山町の将来を真剣に考えていることが感じられます。また、親御さんやご家族の方々の「子ども議会」への関心度も高まり、傍聴席は超満員となっております。

子ども議員は管内の小中学校から小学生6名、中学生6名が選ばれ、一日議員として、一問一答方式で一般の本会議と同様に町長を始め町幹部職員全員が出席をして行われています。そして、町当局側は子どもたちから出された提案や要望について、何らかの形で町の施策に生かして行けるよう努めています。

議会では、平成19年に議員定数が15名から12名に削減され現在に至っています。委員会は総務文教、産業厚生の2つの常任委員会で構成され、その他に議会運営委員会、議会広報編集委員会、決算審査特別委員会を設け、議会運営を最大限効率的に実施しています。

各常任委員会は、本会議で付託された案件や請願等について、町当局と話し合い、きめ細かな調査・審査を実施し、町民の皆様の声に応えられるよう全力で努力しています。

また、所管事務調査については、必要に応じ県内は勿論のこと、県外へも先進地視察を毎年実施しているところです。

今後、なお一層地方が変わって行くであろう分権型社会において、九度山町議会は、今まで以上に協議・議論を重ね、町民のために積極的に活動していく

ものと考えられます。